

貯法：室温保存  
有効期間：3年  
劇薬  
処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

日本標準商品分類番号

87216

承認番号 22900AMX00213000

販売開始 2017年6月

5-HT<sub>1B/1D</sub> 受容体作動型片頭痛治療剤  
リザトリプタン安息香酸塩口腔内崩壊錠

## リザトリプタンOD錠10mg「TCK」

RIZATRIPTAN OD Tablets 「TCK」

### 2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）




- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 心筋梗塞の既往歴のある患者、虚血性心疾患又はその症状・兆候のある患者、異型狭心症(冠動脈攣縮)のある患者〔不整脈、狭心症、心筋梗塞を含む重篤な虚血性心疾患様症状があらわれることがある。〕
- 2.3 脳血管障害や一過性脳虚血発作の既往のある患者〔脳血管障害や一過性脳虚血発作があらわれることがある。〕
- 2.4 末梢血管障害を有する患者〔症状を悪化させる可能性が考えられる。〕
- 2.5 コントロールされていない高血圧症の患者〔一過性の血圧上昇を引き起こすことがある。〕
- 2.6 重度の肝機能障害を有する患者〔9.3.1 参照〕
- 2.7 血液透析中の患者〔9.2.1, 16.6.1 参照〕
- 2.8 エルゴタミン、エルゴタミン誘導体含有製剤、あるいは他の5-HT<sub>1B/1D</sub>受容体作動薬を投与中の患者〔10.1 参照〕
- 2.9 モノアミン酸化酵素阻害剤(MAO阻害剤)を投与中、あるいは投与中止2週間以内の患者〔10.1 参照〕
- 2.10 プロプラノロール塩酸塩を投与中の患者〔10.1 参照〕

### 3. 組成・性状

#### 3.1 組成

販売名	有効成分（1錠中）	添加剤
リザトリプタンOD錠10mg「TCK」	リザトリプタン安息香酸塩14.53mg (リザトリプタンとして10mg)	D-マンニトール、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、リン酸水素カルシウム水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、スクラロース、結晶セルロース、クロスカルメロースナトリウム、軽質無水ケイ酸、香料、ステアリン酸マグネシウム

#### 3.2 製剤の性状

販売名	外形			色調 剤形	識別 コード
	直径(mm)	厚さ(mm)	重量(mg)		
リザトリプタンOD錠10mg「TCK」	 9.0	 2.6	 200	白色 素錠	TU 277

### 4. 効能又は効果

片頭痛

### 5. 効能又は効果に関連する注意

5.1 本剤は、国際頭痛学会による片頭痛診断基準<sup>1)</sup>により「前兆のない片頭痛」あるいは「前兆のある片頭痛」と診断が確定さ

れた場合にのみ使用すること。特に次のような患者は、クモ膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性があるので、本剤投与前に問診、診察、検査を十分に行い、頭痛の原因を確認してから投与すること。

- ・今までに片頭痛と診断が確定したことのない患者
  - ・片頭痛と診断されたことはあるが、片頭痛に通常みられる症状や経過とは異なった頭痛及び随伴症状のある患者
- 5.2 家族性片麻痺性片頭痛、孤発性片麻痺性片頭痛、脳底型片頭痛あるいは眼筋麻痺性片頭痛の患者には投与しないこと。

### 6. 用法及び用量

通常、成人にはリザトリプタンとして1回10mgを片頭痛の頭痛発現時に経口投与する。

なお、効果が不十分な場合には、追加投与することができるが、前回の投与から2時間以上あけること。

ただし、1日の総投与量を20mg以内とする。

### 7. 用法及び用量に関連する注意

- 7.1 本剤は片頭痛の頭痛発現時に限り使用し、予防的に投与しないこと。
- 7.2 本剤投与により全く効果が認められない場合は、その発作に対して追加投与をしないこと。このような場合は、再検査の上、頭痛の原因を確認すること。

### 8. 重要な基本的注意

- 8.1 心血管系の疾患が認められない患者においても、重篤な心疾患が極めてまれに発生することがある。このような場合は以後の投与を中止し、適切な処置を行うこと。〔9.1.1, 11.1.2 参照〕
- 8.2 片頭痛あるいは本剤投与により眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械操作に従事させないように十分注意すること。
- 8.3 本剤を含むトリプタン系薬剤により、頭痛が悪化することがあるので、頭痛の改善を認めない場合には、「薬剤の使用過多による頭痛」の可能性を考慮し、投与を中止するなど、適切な処置を行うこと<sup>1)</sup>。〔11.1.9 参照〕

### 9. 特定の背景を有する患者に関する注意

#### 9.1 合併症・既往歴等のある患者

##### 9.1.1 虚血性心疾患の可能性のある患者

例えば、以下のような患者では不整脈、狭心症、心筋梗塞を含む重篤な虚血性心疾患様症状があらわれるおそれがある。〔8.1, 11.1.2 参照〕

- ・虚血性心疾患を疑わせる重篤な不整脈のある患者
- ・閉経後の女性
- ・40歳以上の男性
- ・冠動脈疾患の危険因子を有する患者

### 9.1.2 てんかんあるいは痙攣を起こしやすい器質的脳疾患のある患者

てんかん様発作が発現したとの報告がある。[11.1.4 参照]

### 9.1.3 脳血管障害の可能性のある患者

脳血管障害があらわれるおそれがある。

### 9.1.4 ウォルフ・パーキンソン・ホワイテ症候群 (WPW 症候群) 又は他の心臓副伝導路と関連した不整脈のある患者

WPW 症候群の典型的症状である重篤な発作性頻脈が発現したとの報告がある。[11.1.3 参照]

### 9.1.5 コントロールされている高血圧症患者

一過性の血圧上昇や末梢血管抵抗の上昇がみられたとの報告がある。

## 9.2 腎機能障害患者

### 9.2.1 血液透析中の患者

投与しないこと。透析患者に本剤を投与したとき、健康成人に比べ AUC が増加したとの報告がある(外国人データ)。[2.7 ,16.6.1 参照]

## 9.3 肝機能障害患者

### 9.3.1 重度の肝機能障害患者

投与しないこと。本剤は主に肝臓で代謝されるので、重度の肝機能障害患者では血中濃度が上昇するおそれがある。[2.6 ,16.6.2 参照]

### 9.3.2 肝機能障害患者 (重度の肝機能障害患者を除く)

外国において、健康成人と比較して中等度の肝機能障害患者では、本剤の AUC と C<sub>max</sub> が増加する傾向が報告されている。[16.6.2 参照]

## 9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

## 9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。動物実験 (ラット) で乳汁中に移行することが報告されている。

## 9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

## 10. 相互作用

### 10.1 併用禁忌 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エルゴタミン製剤 エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン (クリアミン) エルゴタミン誘導体含有製剤 ジドロエルゴタミンメシル酸塩 (ジヒデルゴット) エルゴメトリンマレイン酸塩 (エルゴメトリンマレイン酸塩 [F]) メチルエルゴメトリンマレイン酸塩 (メテルギン) [2.8 参照]	血圧上昇又は血管攣縮が増強されるおそれがある。 本剤投与後にエルゴタミンあるいはエルゴタミン誘導体含有製剤を投与する場合は、もしくはその逆の場合は、それぞれ 24 時間以上の間隔をあけて投与すること。	5-HT <sub>1B/1D</sub> 受容体作動薬との薬理的相加作用により、相互に作用 (血管収縮作用) を増強させる。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
5-HT <sub>1B/1D</sub> 受容体作動薬 スマトリプタン コハク酸塩 (イミグラン) ゾルミトリプタン (ゾーミック) エレトリプタン 臭化水素酸塩 (レルパックス) ナラトリプタン塩酸塩 (アマージ) [2.8 参照]	血圧上昇又は血管攣縮が増強されるおそれがある。 本剤投与後に他の 5-HT <sub>1B/1D</sub> 受容体作動薬を投与する場合は、もしくはその逆の場合は、それぞれ 24 時間以内に投与しないこと。	併用により相互に作用を増強させる。
MAO 阻害剤 [2.9 ,16.4.1 , 16.7.1 参照]	本剤及び活性代謝物の消失半減期 (t <sub>1/2</sub> ) が延長し、血中濃度 - 時間曲線下面積 (AUC) が増加するので、MAO 阻害剤を投与中あるいは投与中止 2 週間以内の患者には本剤を投与しないこと。	A 型 MAO 阻害剤により本剤の代謝が阻害され、本剤の作用が増強される可能性がある。
プロプラノロール塩酸塩 (インデラル) [2.10 ,16.4.1 , 16.7.2 参照]	本剤の消失半減期 (t <sub>1/2</sub> ) が延長し、血中濃度 - 時間曲線下面積 (AUC) が増加するので、プロプラノロールを投与中あるいは投与中止から次の期間が経過していない患者には本剤を投与しないこと。 錠剤：24 時間、 徐放製剤：48 時間	両薬剤の代謝には A 型 MAO が関与するため本剤の代謝が阻害され、本剤の作用が増強される可能性がある。

### 10.2 併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
選択的セロトニン再取り込み阻害剤 フルボキサミン マレイン酸塩 パロキセチン塩酸塩水和物等 セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 ミルナシプラン塩酸塩	セロトニン症候群 (不安、焦燥、興奮、頻脈、発熱、反射亢進、協調運動障害、下痢等) があらわれることがある。	セロトニンの再取り込みを阻害し、セロトニン濃度を上昇させる。 5-HT <sub>1B/1D</sub> 受容体作動薬との併用により、セロトニン作用が増強する可能性が考えられる。

## 11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

### 11.1 重大な副作用

11.1.1 アナフィラキシーショック、アナフィラキシー (いずれも頻度不明)

11.1.2 虚血性心疾患様症状 (頻度不明)

不整脈、狭心症あるいは心筋梗塞を含む虚血性心疾患様症状があらわれることがある。本剤投与後、胸痛、胸部圧迫感等の一過性の症状 (強度で咽喉頭部に及ぶ場合がある) があらわれることがある。このような症状が虚血性心疾患によると思われる場合には、以後の投与を中止し、虚血性心疾患の有無を調べるための適切な検査を行うこと。[8.1 ,9.1.1 参照]

11.1.3 頻脈 (WPW 症候群における) (頻度不明)

WPW 症候群の典型的症状である重篤な発作性頻脈の報告がある。[9.1.4 参照]

11.1.4 てんかん様発作 (頻度不明)

[9.1.2 参照]

11.1.5 血管浮腫 (頻度不明)

顔面、舌、咽頭等の浮腫があらわれることがある。

11.1.6 中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : TEN) (頻度不明)

11.1.7 呼吸困難（頻度不明）

11.1.8 失神（頻度不明）

11.1.9 薬剤の使用過多による頭痛（頻度不明）

[8.3 参照]

11.2 その他の副作用

	5%以上	0.1～5%未満	頻度不明
全身症状	—	倦怠感、脱力、胸痛、冷感	無力症・疲労痛
循環器	—	動悸	頻脈、高血圧
消化器	—	悪心、嘔吐、下痢、口内乾燥、口渇、腹痛	消化不良
筋・骨格系	—	硬直	頸部痛、局所性重圧感、局所性絞扼感、筋力低下、顔面痛
精神神経系	傾眠(7.7%)	めまい、感覚減退、錯感覚、知覚過敏	頭痛、精神明瞭性の減退、不眠症、振戦、運動失調、神経過敏、失見当識、多幸症
呼吸器	—	鼻乾燥	咽頭不快感、喘鳴
皮膚	—	蕁麻疹、そう痒症	潮紅、発汗、発疹
肝臓	—	肝機能異常 (ALT 上昇、AST 上昇等)	—
その他	—	CK 上昇、光視症、頻尿、食欲減退	霧視、ほてり、温感、味覚異常

13. 過量投与

13.1 症状

過量投与の主な症状は、傾眠、めまい、高血圧又は他の血管収縮の徴候を含む心・血管系の事象である。その他に、嘔吐、徐脈、失神、アトロピン反応性の3度房室ブロック、失禁が起きる可能性がある。

13.2 処置

本剤を過量に投与した場合は、胃洗浄及び活性炭による吸着を行い、12時間以上は症状及び心電図のモニタリングを行うこと。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

14.1.1 プリスター包装の薬剤はプリスターシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。

14.1.2 プリスターシートを乾いた手で剥がして、本剤を取り出し服用する。

14.1.3 本剤を舌の上のせて唾液を浸潤させると崩壊するため、水なしで服用可能である。また、水で服用することもできる。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

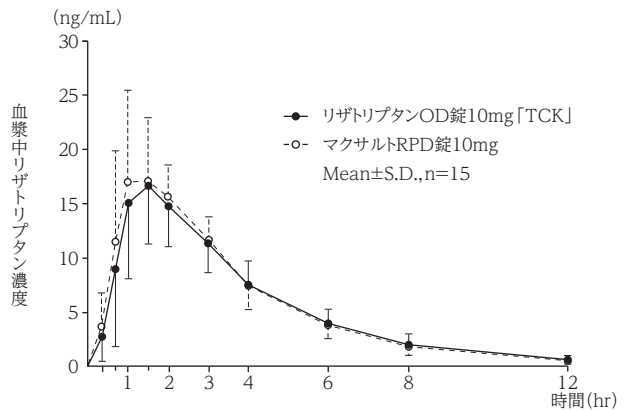
16.1.1 生物学的同等性試験

リザトリプタン OD錠 10mg [TCK] とマクスルト RPD錠 10mg を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（リザトリプタンとして10mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された<sup>2)</sup>。

1) 水なし投与

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0→12hr</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
リザトリプタンOD錠10mg [TCK]	66.82±13.31	19.01±5.88	1.54±0.56	2.03±0.43
マクスルトRPD錠10mg	68.93±15.96	20.39±6.50	1.51±0.58	2.01±0.43

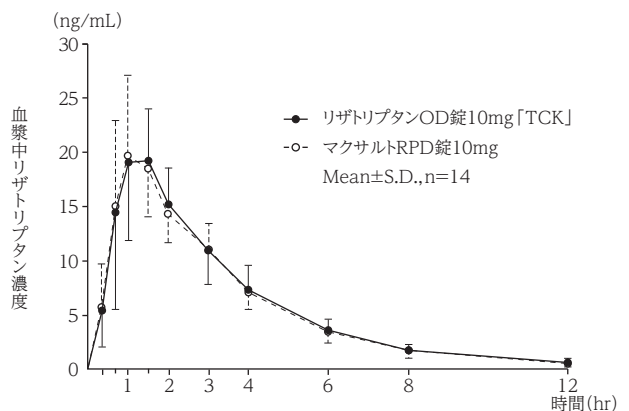
(Mean±S.D., n=15)



2) 水あり投与

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0→12hr</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
リザトリプタンOD錠10mg [TCK]	69.99±15.72	21.98±7.09	1.27±0.43	1.96±0.31
マクスルトRPD錠10mg	68.99±12.75	21.23±6.58	1.24±0.43	1.91±0.29

(Mean±S.D., n=14)



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

16.4 代謝

16.4.1 リザトリプタンの主要代謝経路は、A型MAOによる酸化的脱アミノ化であり、薬理学的に不活性なインドール酢酸体を生成する<sup>3)</sup>。[10.1 参照]

16.6 特定の背景を有する患者

16.6.1 腎機能障害患者

腎機能障害患者（クレアチニンクリアランス10～60mL/min/1.73m<sup>2</sup>）にリザトリプタン5mg液剤を経口投与<sup>註)</sup>したとき、未変化体のAUCは健康成人と比較して差が認められなかった。透析患者におけるAUCは健康成人に比べ44%増加した（外国人データ<sup>4)</sup>）。[2.7, 9.2.1 参照]

16.6.2 肝機能障害患者

軽度から中等度の肝機能障害患者にリザトリプタン5mg錠を経口投与<sup>註)</sup>した後の薬物動態を健康成人と比較した。経口投与後の未変化体の血漿中濃度は軽度の肝機能障害患者と健康成人と

で差は認められなかった。中等度の肝機能障害患者では健康成人と比較して未変化体の血漿中濃度は約 30% 増加した。*N*-脱メチル体の血漿中濃度は、健康成人に比べ肝機能障害患者で有意に低下した(外国人データ)<sup>5)</sup>。[9.3.1, 9.3.2 参照]

## 16.7 薬物相互作用

### 16.7.1 モクロベミド

A 型 MAO 阻害薬(モクロベミド:国内未承認) 150mg を健康成人に 1 日 3 回 4 日間反復経口投与し、4 日目にリザトリプタン 10mg 錠を単回経口投与したとき、モクロベミド併用時のリザトリプタン未変化体の AUC 及び C<sub>max</sub> は非併用時のそれぞれ 2.2 倍及び 1.4 倍、*N*-脱メチル体ではそれぞれ 5.3 倍及び 2.6 倍となった(外国人データ)<sup>6)</sup>。[10.1 参照]

### 16.7.2 プロプラノロール塩酸塩

プロプラノロール塩酸塩 120mg を健康成人に 7.5 日 12 時間毎に反復経口投与し、7 又は 8 日目にリザトリプタン 10mg 錠を単回経口投与したとき、プロプラノロール塩酸塩併用時のリザトリプタンの AUC 及び C<sub>max</sub> は非併用時のそれぞれ 1.67 倍及び 1.75 倍となった(外国人データ)<sup>7)</sup>。[10.1 参照]

注) 本剤の承認された 1 回の用法・用量は「10mg を経口投与」であり、1 日の総投与量は「20mg 以内」である。

## 18. 薬効薬理

### 18.1 作用機序

リザトリプタンは、頭蓋血管に存在する 5-HT<sub>1B</sub> 受容体に作用し、片頭痛発作時に拡張すると考えられている脳外の頭蓋内動脈を選択的に収縮させる。また、三叉神経に存在する末梢及び中枢抑制性 5-HT<sub>1D</sub> 受容体に作用し、各種ペプチド(サブスタンス P、カルシトニン遺伝子関連ペプチド等)の放出を妨げ、血管拡張、硬膜の炎症、中枢性疼痛の伝達を抑制すると思われる。リザトリプタンは、これらの作用により片頭痛を改善すると考えられている<sup>8)~14)</sup>。

## 19. 有効成分に関する理化学的知見

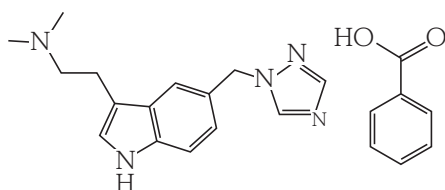
一般的名称: リザトリプタン安息香酸塩 (Rizatriptan Benzoate)

化学名: *N,N*-Dimethyl-2-[5-(1*H*-1,2,4-triazol-1-ylmethyl)-1*H*-indol-3-yl]ethanamine benzoate

分子式: C<sub>15</sub>H<sub>19</sub>N<sub>5</sub> · C<sub>7</sub>H<sub>6</sub>O<sub>2</sub>

分子量: 391.47

構造式:



性状: 白色の結晶性の粉末である。

水又はメタノールにやや溶けやすく、エタノール (95) にやや溶けにくい。

## 22. 包装

18 錠 (6 錠 (ブリスター) × 3)

## 23. 主要文献

- 1) Headache Classification Committee of the International Headache Society: Cephalalgia. 2018 ; 38 :1-211
- 2) 社内資料: 生物学的同等性試験
- 3) 動物における成績\_代謝(マクスルト錠/RPD 錠: 2003 年 7 月 17 日承認、申請資料概要へ .2. (3))

- 4) 腎機能不全患者における薬物動態\_外国臨床試験(マクスルト錠/RPD 錠: 2003 年 7 月 17 日承認、申請資料概要へ .3. (4))
- 5) 肝機能不全患者における薬物動態\_外国臨床試験(マクスルト錠/RPD 錠: 2003 年 7 月 17 日承認、申請資料概要へ .3. (5))
- 6) van Haarst, A.D. et al. : Br. J. Clin. Pharmacol. 1999 ; 48 : 190-196
- 7) Goldberg, M.R. et al. : Br. J. Clin. Pharmacol. 2001 ; 52 : 69-76
- 8) Longmore, J. et al.: Br. J. Clin. Pharmacol. 1998 ; 46 : 577-582
- 9) Ferro, A. et al.: Br. J. Clin. Pharmacol. 1995 ; 40 : 245-251
- 10) Longmore, J. et al.: Br. J. Clin. Pharmacol. 1996 ; 42 : 431-441
- 11) Longmore, J. et al.: Funct. Neurol. 1997 ; 12 : 3-9
- 12) Williamson, D.J. et al.: Eur. J. Pharmacol. 1997 ; 328 : 61-64
- 13) Cumberbatch, M.J. et al.: Eur. J. Pharmacol. 1997 ; 328 : 37-40
- 14) 効力を裏付ける試験\_総括(マクスルト RPD 錠: 2003 年 7 月 17 日承認、申請資料概要ホ .1)

## 24. 文献請求先及び問い合わせ先

辰巳化学株式会社 薬事・学術課  
〒921-8164 金沢市久安 3 丁目 406 番地  
TEL 076-247-2132  
FAX 076-247-5740

## 26. 製造販売業者等

### 26.1 製造販売元



辰巳化学株式会社

金沢市久安 3 丁目 406 番地

### 26.2 販売元



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号